
死線は夢の青空模様

一河善知鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死線は夢の青空模様

【Nコード】

N4194B

【作者名】

一河善知鳥

【あらすじ】

ママはあたしが六歳のときに。ママはあたしと一緒に。ママはどんな人より。あたしはママが好き。

遠い記憶の話。あたしは六歳。ママ、二十九歳。あたしはずっとママが憧れの人だった。みんなに優しく、友達が多くて、料理がおいしいから。だから、あのときも、たくさんの人がママにお別れを言いに来た。

「ママ、今日は疲れたよね？」

「たくさん、お友だちきたからね」

「うん。愛ちゃんママに、パパのどーりよーの人でしょ、それにママの同級生の由希子ちゃん！」

「よく覚えてるねえ」

ママ、話し方がいつもよりゆっくりだった。

「ママのお友だちみんないい人だからね、ジュース買ってくれたり、遊んでくれたりしたんだよ」

「そっかあ。ごめんねえ、ママが遊んであげられなくて…」

「へーきだよ！ みいはいつもこれ、持ってるの」

「あ、そうなんだあ」

「うん。ちょっとさびしくなったらね、この日記を見るの！ 読んであげよっか？ えっとねえ…。『七月十九日。晴れ。美依子。みいは

今日、ママとお家の近くにある公園に行ってきました。公園にはお友だちがたくさんいました。けどみいはママと遊んだのが一番面白かったです』

「ごほっ…げほっ…」

「ママ!？」

「…大丈夫だよ、もっと、読んで?」

「…うん。『七月十九日。晴れ。ママ。ママは今日、みいちゃんと一緒に公園に行きました。みいちゃんは友だちの愛ちゃんや奈々ちゃんと遊んで、とっても楽しそうでした。だから、ママたちも一緒に遊んでみました。愛ちゃんママや奈々ちゃんママも、みんなみんな笑っていました。みい、また一緒に行こうね』」

「…」

「…あれ? ママ、寝ちゃったのかな?」

それはあたしの勘違い。

「あ、みいちゃん。ちょっとお姉さんと遊ぼう?」

それからあたしは看護師さんに連れられて、どこかの部屋に連れられた。そこでした、ゲームもパズルも、いつもより面白くなくて、あたしは気がついたら眠っていた。

目覚めると、黒い服のパパ。怖い顔をしてた。

あたしはそれから一生分くらい泣いた。

荷物の整理をしていたら、日記が出てきて、あたしはそんなことを思い出していた。ママが悲しんじゃうといけないから、涙は流してはいけない。

「ねえー、あたしの料理って、おいしいかな？」

「すごく、美味しいと思うよ」

「当たり前じゃーん」

「美味しいですよ」

荷造りを手伝ってくれているみんなが答えてくれた（もちろん、夫が一番初めに答えてくれた）。

「ね、ママ。あたしはママに、なれたかな？」

空に向かってあたしは尋ねてみる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4194b/>

死線は夢の青空模様

2010年11月28日06時20分発行